

算数・数学を  
活用する力を  
はぐくむ問題例

# 数量編



# ゲームソフトを買おう！

問 まいさんとだいすけさんは、家庭科で「お金の正しい使い方」を学習したことがきっかけになり、1月から毎月貯金をはじめることになりました。



だいすけ

今、ぼくにはお年玉をもらった残りが900円あるよ。この900円を貯金するほかに、1月からは、毎月200円ずつ貯金をしていこうと考えているんだ。

私にはお年玉の残りはないわ。だから、1月から毎月350円ずつ貯金して、早くだいすけさんに追いつきたいな。



まい

早くだいすけさんに追いつきたいまいさんは、下のような表を作って、何月にだいすけさんに追いつくことができるのか調べてみました。

	今もっているお金	1月	2月	3月	4月
だいすけ (円)	900	1100			
まい (円)	0	350			
<b>A</b> (円)	900				

(1) まいさんの作った表のAには、どんなことばが入りますか。下の  の中に、Aにあてはまることばを書きましょう。

(2) 上にあるまいさんが作った表のあいているらんにあてはまる数字を入れて、表を完成させましょう。

(3) まいさんは完成した表から、次のようなきまりを見つけました。まいさんの見つけたきまりを完成させましょう。

まいさんの見つけたきまり

だいすけさんと私の貯金した金額の差は、ひと月で

ずつ

いる

(4) まいさんは、だいすけさんに何月に追いつくことができますか。下の  の中に、(3)で見つけたきまりをもとに、式を作って求めましょう。

式

追いつくのは

月

まいさんは、お姉さんと2人でお金を出し合って5000円のゲームソフトを買うことにしました。まいさんは、ゲームソフトを買うために毎月350円の貯金とは別に、ゲームソフトを買うための貯金をはじめることになりました。



お姉さん

今、私には800円の貯金があるわ。この貯金に加えて、1月からは、毎月400円ずつ貯金することにするわ。



まい

私は、1月から毎月200円ずつ貯金するわ。

- (5) 2人の貯金の合計が5000円になったとき、ゲームソフトを買います。2人がゲームソフトを買えるのは、何月になりますか。下の  の中に、表や式を使って説明しましょう。

2人がゲームソフトを買えるのは  月

小学校 第5学年 D 数量関係 「ゲームソフトを買おう！」

1 出題の趣旨

第4学年では、具体的な場面において、伴って変わる二つの数量があることに着目し、それらの関係を表やグラフを用いて表し、関係を明らかにする能力を伸ばしていくことがねらいとして示されている。

この問題では、二人の貯金額の差や和などの問題の条件を読み取り、表に表したり、二つの変化する数量の間のきまりに気付いたりして、問題を解けるようにすることをねらっている。

二つの変化する数量の間にある関係を明確にするには、対応する値の組をいくつも求め、順序よく表に整理することが大事であると実感させ、関数の考え方や統計的な見方を伸ばそうとする態度をはぐくむことを意図している。

[四つの観点との対応]

物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること	与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること	筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること	事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること
○		○	○

2 各問題の趣旨

問題番号	新学習指導要領における領域・内容	出題のねらい	評価の観点		
			数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
(1)	第4学年 D 数量関係 (1) 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるようにする。 ア 変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。	問題の条件を読み取り、表の空欄に必要な言葉を書き込むことができる。		○	
(2)		問題の条件を読み取り、表の空欄に必要な数を書き込むことができる。		○	
(3)		ひと月ごとの変化のきまりに気付くことができる。	○		
(4)		ひと月ごとの変化のきまりに気付き立式して、答えを求めることができる。(差の変化)	○		
(5)		ひと月ごとの変化のきまりに気付き立式して、答えを求めることができる。(和の変化)	○		

### 3 正答と解説

問題番号	正 答 (例)	解 説																								
(1)	差	別解…「違い」「2人の貯金の差」など																								
(2)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;">\</td> <td style="text-align: center;">今もって いるお金</td> <td style="text-align: center;">1月</td> <td style="text-align: center;">2月</td> <td style="text-align: center;">3月</td> <td style="text-align: center;">4月</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">だいすけ</td> <td style="text-align: center;">900</td> <td style="text-align: center;">1100</td> <td style="text-align: center;">1300</td> <td style="text-align: center;">1500</td> <td style="text-align: center;">1700</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">まい</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">350</td> <td style="text-align: center;">700</td> <td style="text-align: center;">1050</td> <td style="text-align: center;">1400</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">差</td> <td style="text-align: center;">900</td> <td style="text-align: center;">750</td> <td style="text-align: center;">600</td> <td style="text-align: center;">450</td> <td style="text-align: center;">300</td> </tr> </table>	\	今もって いるお金	1月	2月	3月	4月	だいすけ	900	1100	1300	1500	1700	まい	0	350	700	1050	1400	差	900	750	600	450	300	<ul style="list-style-type: none"> <li>表を縦に見ることで、二人の貯金の差を求める。</li> </ul>
\	今もって いるお金	1月	2月	3月	4月																					
だいすけ	900	1100	1300	1500	1700																					
まい	0	350	700	1050	1400																					
差	900	750	600	450	300																					
(3)	<p>150円ずつ<small>小さくなって</small>いる</p> <p>150円ずつ<small>少なくなって</small>いるなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>150円は単位も付けての完全解答とする。</li> <li>二つ目の枠は、「小さくなる」、「少なくなっている」など、差が縮まっていることを表す表現であれば正答とする。</li> </ul>																								
(4)	<p>式 <math>900 \div 150 = 6</math></p> <p>追いつくのは <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">6</span>月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「最初の差÷ひと月ごとの差の縮まり」で立式する。</li> </ul>																								
(5)	<p>(解答例：表からきまりを見つけ立式)</p> <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;">\</td> <td style="text-align: center;">今もって いるお金</td> <td style="text-align: center;">1月</td> <td style="text-align: center;">2月</td> <td style="text-align: center;">3月</td> <td style="text-align: center;">4月</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">お姉さん</td> <td style="text-align: center;">800</td> <td style="text-align: center;">1200</td> <td style="text-align: center;">1600</td> <td style="text-align: center;">2000</td> <td style="text-align: center;">2400</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">まい</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">200</td> <td style="text-align: center;">400</td> <td style="text-align: center;">600</td> <td style="text-align: center;">800</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">和</td> <td style="text-align: center;">800</td> <td style="text-align: center;">1400</td> <td style="text-align: center;">2000</td> <td style="text-align: center;">2600</td> <td style="text-align: center;">3200</td> </tr> </table> <p><math>5000 - 800 = 4200</math></p> <p><math>4200 \div 600 = 7</math></p> <p>2人がゲームソフトを買えるのは <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">7</span>月</p>	\	今もって いるお金	1月	2月	3月	4月	お姉さん	800	1200	1600	2000	2400	まい	0	200	400	600	800	和	800	1400	2000	2600	3200	<ul style="list-style-type: none"> <li>表の3段目の言葉は「和」であったり「合計」であったり、題意に合っていれば正答とする。</li> <li>合計額が5000円になるための期間を求めるには、最初に持っている800円を除くことが必要である。</li> <li>「最初の差÷ひと月ごとの合計額の増え方(金額)」で立式する。</li> </ul>
\	今もって いるお金	1月	2月	3月	4月																					
お姉さん	800	1200	1600	2000	2400																					
まい	0	200	400	600	800																					
和	800	1400	2000	2600	3200																					

# 新鮮カボチャの値段はいくら？

**問** よしおさんのお父さんは、スーパーマーケットの店長をしています。お父さんは、野菜売り場でカボチャを1個360円で売ることになりました。カボチャは、農家の人<sup>しゅうかく</sup>が今朝収穫したものを、お父さんが直接買ってきたものです。



お父さんがカボチャ1個の値段を、360円に決めたのは、農家の人から買った値段に50%のもうけをつけたからなんだって。



(1) よしおさんはお父さんが農家の人から、カボチャ1個をいくらの値段で買ったのかを、下の式を使って求めることができると考えています。

①  の中にあてはまることばを、よしおさんの話していることばの中から書き出しましょう。

農家の人から買ったカボチャ1個の値段は、

$360 \div (1 + 0.5)$  の式で求めることができるよ。

(1 + 0.5) の

1 は

<sup>わりあい</sup>を割合で表したもの、

0.5 は

を割合で表したものだよ。

②  の中に、 $360 \div (1 + 0.5)$  を筆算でしてみましょう。

また、(  ) の中に、農家の人から買ったカボチャ1個の値段を書きましょう。

筆算

カボチャ1個 (  ) 円

1個360円の値段をつけて売ろうとしたカボチャは、午前中に1個も売れませんでした。そこで、お父さんは、午後1時から30分間、サービスタイムを作ってカボチャの安売りをすることにしました。

(2) お父さんはカボチャ売り場に右のような、サービスタイムの看板を出すことにしました。

サービスタイムのカボチャ1個の値段は、農家の人から買った値段より低くならないようにぎりぎり安く設定します。

右の看板の□の中に、あてはまる1けたの数字を書きましょう。

また、その数字を選んだ理由を、下の□の中に、式やことばを使って説明しましょう。

新鮮カボチャのサービスタイム

午後1時から1時30分まで

1個360円を □ 割引

ではん売します。

小学校第5学年 D 数量関係 「新鮮カボチャの値段はいくら？」

1 出題の趣旨

資料を数量的に考察する場合には、数量の大きさの間の関係を差でとらえる場合と割合でとらえる場合がある。資料の全体と部分、部分と部分の関係を考察する場合には、割合を用いて表す場合が多い。

第4学年までに、基準にする大きさを1として、それに対する割合を小数で表すことを経験してきている。第5学年では、百分率について理解し用いることができるようにすることをねらいとしている。

この問題では、商品の割引という生活の中で目にする事の多い場面から、定価をもとにして仕入れ値を求めたり、定価をもとに5割引した金額を求めたりできるようにする。

さらに、「歩合」で表わされた割合も日常生活の中で用いられている割合の便利な表現であることにも慣れさせ、「百分率」と関連付けて考えられるようにしている。

[四つの観点との対応]

物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること	与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること	筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること	事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること
○		○	○

2 各問題の趣旨

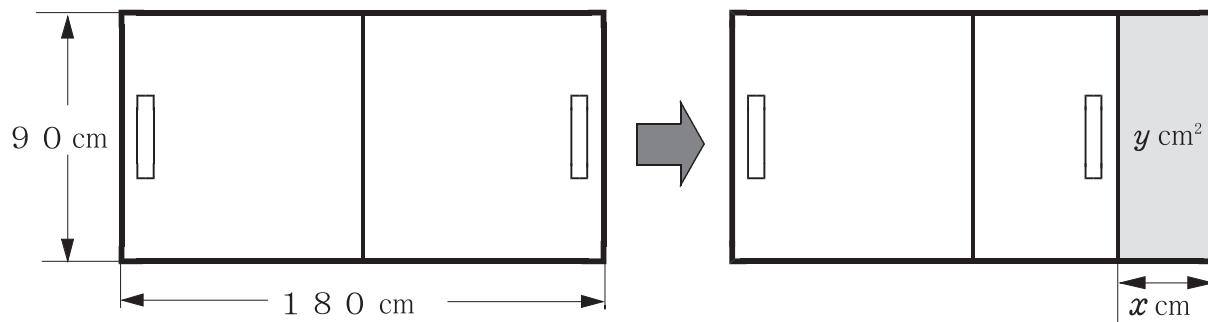
問題番号	新学習指導要領における領域・内容	出題のねらい	評価の観点		
			数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
(1) ①	第5学年 D 数量関係 (3) 百分率について理解できるようにする。	360円は「もとにする量(1)+ 儲け50%(0.5)」で表されている ことを読み取ることができる。	○		
(1) ②	[用語・記号] % (内容の取扱い) (4) 内容の「D数量関係」の(3) については、歩合の表わし方 について触れるものとする。	小数の割り算をして、仕入れ 値を求めることができる。		○	
(2)		仕入れた金額より下回らない という条件に合わせて、売値を 設定することができる。	○		

### 3 正答と解説

問題番号	正 答 (例)	解 説
(1) ①	1 は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">農家の人から買った値段</span> 0.5 は <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">50%のもうけ</span>	・「1」とみるのは「農家の人から買った値段」で、「0.5」は、「50%のもうけ」を小数で表したものの。
(1) ②	筆算 $\begin{array}{r} 240 \\ 1.5 \overline{) 360.0} \\ \underline{30} \\ 60 \\ \underline{60} \\ 0 \end{array}$ カボチャ1個 (240) 円	・小数点 (位) の確認をする。
(2)	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span> 割引 その数字を選んだ理由 (例1) 何割引すればいいのか、順にあてはめて計算してみると $360 \times (1 - 0.5) = 180$ $360 \times (1 - 0.4) = 216$ $360 \times (1 - 0.3) = 252$ となり、「4割引では216円で売ることになって農家の人から買った値段よりも安くなってしまうから。」  (例2) $360 - 240 = 120$ $120 \div 360 = 0.333\dots$ 農家の人から買った値段は240円なので、もうけの金額は120円。 その120円は360円のおよそ3割3分に当たる。農家の人から買った値段より低くならないためには、3割までは割引できるから。	・(1)の②で求めた1個の値段をもとにして  (例1) 何割引すればよいか、順にあてはめて考える。  (例2) 最初に120円が360円の何割に当たるのか求めて考える。

## 開けたまどと面積の関係

問 下のような縦が90 cm, 横が180 cmの長方形のまどがあります。このまどを開けていくはばを  $x$  cm, そのときにできる開いた部分の面積を  $y$  cm<sup>2</sup>とします。



(1) まどを開けていくはば  $x$  cm, 開いた部分の面積  $y$  cm<sup>2</sup>の関係を表にします。  
アとイにあてはまる数字を書きましょう。

開けるはば ( $x$ cm)	0	1	2	3	4	5
開いた部分の面積 ( $y$ cm <sup>2</sup> )	0	ア	180	270	イ	450

ア		イ	
---	--	---	--

(2) まどを開けていくはば  $x$  cm, 開いた部分の面積  $y$  cm<sup>2</sup>の関係を式に表します。  
ウにあてはまる数字を書きましょう。

$$\boxed{\text{ウ}} \times x = y$$

ウ	
---	--

(3) まどを開けていくはば  $x$  cm, 開いた部分の面積  $y$  cm<sup>2</sup>は比例しています。たけしさんとよしおさんは, なぜ比例するのか, その理由を次のように考えました。



たけし

ぼくは, 表を横にみて考えたよ。  
まどを開けていくはばが, 1 cm, 2 cm, 3 cmと  
2倍, 3倍になると, 開いた部分の面積も  
2倍, 3倍になっているから比例しているね。



よしお

ぼくも表を横にみて考えたよ。  
まどを開けていくはばが, 1 cmずつ増えると, 開いた  
部分の面積が90 cm<sup>2</sup>ずつ増えていくから比例しているね。

ともこさんは, 2人とは別の理由を考えました。ともこさんの考えの続きを下の  の中に, 式とことばで書きましょう。

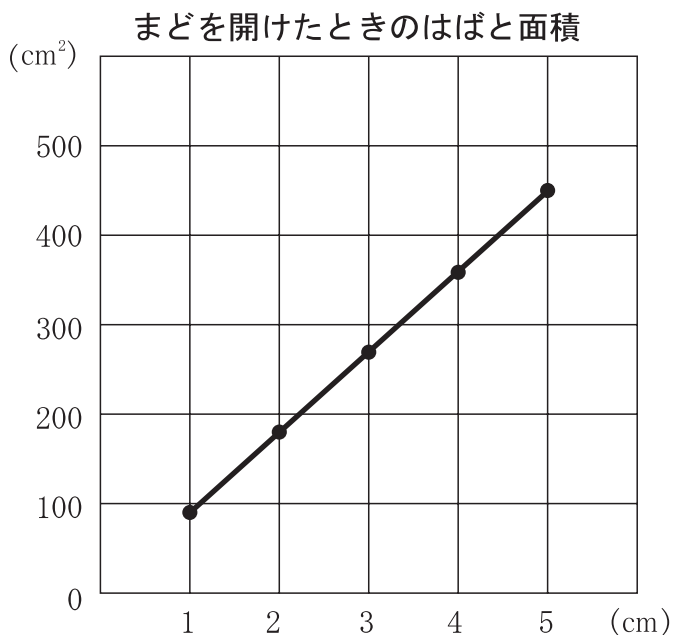


ともこ

わたしは, 表を縦にみて考えたわ。

(4) たけしさんは, 表をもとにして下のようなグラフをかきました。しかし, よく見るとたけしさんのグラフには, たりない部分があつて表を正しく書き表したグラフにはなっていません。下のグラフにたりない部分をかき加えて, 正しいグラフに変えましょう。

また, あなたがたりないと思った部分を説明しましょう。



たりないと思った部分の説明

小学校 第6学年 D 数量関係 「開けたまどと面積の関係」

1 出題の趣旨

第6学年では、これまでに指導してきた数量関係についての見方をまとめるために、伴って変わる二つの数量の中から特に比例の関係にあるものを中心に考察し、関数の考えを伸ばすことをねらいとしている。

そこで、この問題では、比例の関係が有効に用いられる場面を用意し、比例の関係をを用いると手際よく問題を解決することができるなどのよさを味わわせるよう配慮し、日常の問題の解決に進んで比例の関係を活用しようとする態度を育てるようにしている。身近な窓の開閉を素材として、窓を開ける幅と開いた部分の面積の関係が比例していることを表や式から見つけ、比例関係の性質をとらえる力を身に付けさせたい。

さらに、この問題は、中学校の「比例」や「一次関数」へとつながるものであり、中学校数学とのなだらかな接続という観点から、その見方や考え方を育てる意味を含んでいる。

[四つの観点との対応]

物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること	与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること	筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること	事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること
○		○	○

2 各問題の趣旨

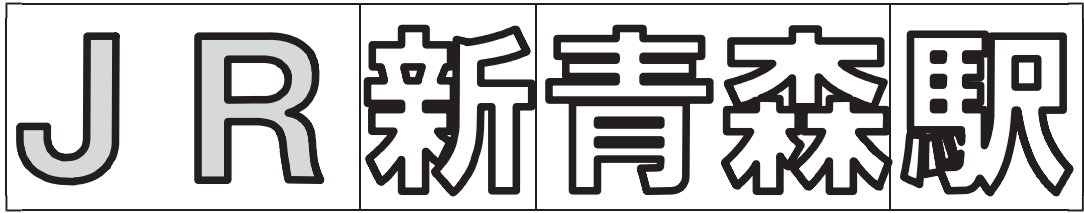
問題番号	新学習指導要領における領域・内容	出題のねらい	評価の観点		
			数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
(1)	第6学年 D 数量関係 (2) 伴って変わる二つの数量の関係を考察することができるようにする。 ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。 イ 比例の関係をを用いて、問題を解決すること。	一方の量を $x$ を使った式で表すことができる。		○	
(2)		伴って変わる二つの数量の関係を表に表すことができる。		○	
(3)		伴って変わる二つの数量の関係が比例関係であることを、定数を見つけて説明することができる。	○		
(4)		比例のグラフの書き方を理解し比例のグラフを正確に書くことができる。		○	

### 3 正答と解説

問題番号	正 答 (例)	解 説
(1)	ア 90                      イ 360	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積は長方形なので、 (開けるはば) × 90 cmで求められる。</li> <li><math>1 \times 90 = 90</math>      <math>4 \times 90 = 360</math></li> </ul>
(2)	ウ 90	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>180 \div 2 = 90</math>      <math>270 \div 3 = 90</math> より、比例定数は90で <math>90 \times (\text{開けるはば}) = (\text{開いた部分の面積})</math>となる。</li> </ul>
(3)	(例) $90 \div 1 = 90$ $180 \div 2 = 90$ $270 \div 3 = 90$ $360 \div 4 = 90$ 面積をはばで割ると、いつもきまった数90になるので、2つの数量(窓を開けるはばと面積)は比例しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>たけしさんとよしおさんが表の横の変化について言及しているのも、ともこさんは表の縦の変化について書けば正答とする。</li> <li>式は比例定数を求める式であればよい。</li> </ul>
(4)	<p style="text-align: center;">まどを開けたときのはばと面積</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例のグラフは、0の点を通る直線になることから、0の点から伸びる直線になっていること。</li> <li>また、はば5 cm以上の面積についても、延長して書いていてもよい。 どこまで、窓を開けることができるのか、面積はどこまで広げることができるのか、考えるのも面白い。</li> </ul>
	たりないと思った部分の説明 例)・0の点を通る直線になっていない。 (縦軸と横軸の交わる点を通る直線になっていない。) ・はば5 cm以上の直線を延長していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例のグラフは、0の点を通る直線になることから、0の点を通ることが書かれていれば正答とする。また、延長することに触れてあっても正答とする。</li> </ul>

# 新幹線のかん板の色は？

**問** たけしさんとよしおさん、ともこさんの3人は、東北新幹線「新青森駅」に出かけて、下のような駅のかん板をスケッチしました。



たけしさんは、このかん板に、次のように色をぬりたいと思っています。



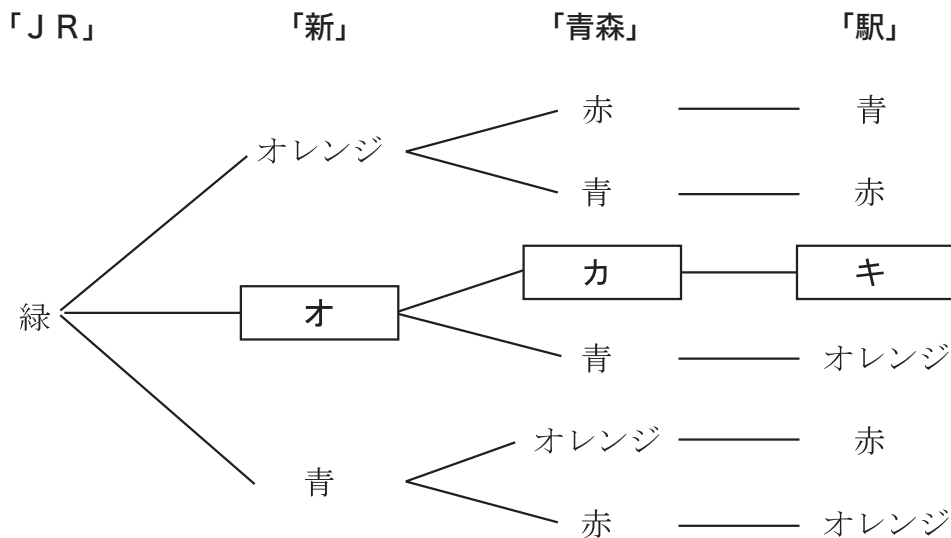
「JR」「新」「青森」「駅」の4つの部分に分けて、  
緑・オレンジ・赤・青の色をそれぞれ1回だけ使って、  
色をぬりたいな。



(1) たけしさんは「JR」の文字を緑色に決めました。そのとき、「新」の文字は何色が考えられますか。あてはまる色をすべて選び、記号に○をつけましょう。

ア 緑      イ オレンジ      ウ 赤      エ 青

(2) たけしさんは、「JR」の文字を緑色にしたときの、他の文字の色の組み合わせを次のように考えました。下のオ・カ・キにあてはまる色を書きましょう。



オ		カ		キ	
---	--	---	--	---	--

たけしさんは、4つの部分の文字の色を次のように決めました。

J R	新	青森	駅
緑	オレンジ	赤	青



よしお

ぼくは、「JR」を1つの色、「新」「青森」「駅」を、「JR」とは別の同じ色にして、4つの色から2色だけ使うことにするよ。

(3) よしおさんの考えで文字に色をぬるとき、色のぬり方は、全部で何通りになりますか。下の  の中に書きましょう。

通り

わたしもたけしさんと同じように、「JR」「新」「青森」「駅」の4つの部分に、緑・オレンジ・赤・青の色をそれぞれ1回だけ使って色をぬるわ。でも、4つの部分の色は、たけしさんが決めた色とは同じ色にならないようにしたいわ。



ともこ

(4) ともこさんの考えで文字に色をぬるとき、色のぬり方を、下の  の中に、すべて書きましょう。

小学校 第6学年 D 数量関係 「新幹線のかん板の色は？」

1 出題の趣旨

第5学年までの分類整理して考える活動の上に、第6学年では、起こり得るすべての場合を適切な観点から分類整理して、順序よく列挙できるようにすることをねらいとしている。結果として何通りの場合があるかを明らかにすることよりも、整理して考える過程に重点をおき、落ちや重なりがないように、順序よく調べていこうとする態度を身に付けさせたい。

そこで、この問題では、四つの部分にそれぞれ異なった色を付ける場合の組合せを考えさせることを通して、起こり得る場合を順序よく整理して調べることをねらいとしている。問題の内容は、4人が一列に並ぶ並び方や、四つの数字を並べてできる数字の組合せを考える問題と同一である。

さらに、この問題は、中学校の「確率」へとつながるものであり、中学校数学とのなだらかな接続という観点から、その見方や考え方を育てる意味を含んでいる。

[四つの観点との対応]

物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえること	与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること	筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること	事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること
	○	○	○

2 各問題の趣旨

問題番号	新学習指導要領における領域・内容	出題のねらい	評価の観点		
			数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
(1)	第6学年 D 数量関係 (5) 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。	4色を、それぞれ一回だけ使うという問題の意味を理解することができる。		○	
(2)		起こり得る場合の数を、落ちや重なりがないように見つけることができる。		○	
(3)		条件に従って、起こり得る場合の数が、何通りあるか見つけることができる。	○		
(4)		条件に従って、起こり得る場合の数を書き出すことができる。	○		

### 3 正答と解説

問題番号	正 答 (例)	解 説																																																															
(1)	イ オレンジ ウ 赤 エ 青	<ul style="list-style-type: none"> <li>4色のうち緑色は使っているため、残りの3色から選択する。</li> </ul>																																																															
(2)	オ 赤 カ オレンジ キ 青	<ul style="list-style-type: none"> <li>4色のうち緑色は決まっているため、残りの3色を並べる場合の数を、樹形図を使って、落ちや重なりがないように考える。</li> </ul>																																																															
(3)	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12</span> 通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの部分の文字が、「JR」と「新青森駅」の2つの部分に分けられることになるため、4色から2色を選択して並べる場合の数を、落ちや重なりがないように考える。</li> </ul>																																																															
(4)	<p>(例) オレンジはオと記号化し、図を使って書き出す。</p> <p>「JR」「新」「青森」「駅」</p> <table style="border-collapse: collapse; margin-left: 20px;"> <tr><td>オ</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>赤</td></tr> <tr><td>オ</td><td>—</td><td>赤</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>緑</td></tr> <tr><td>オ</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>赤</td></tr> <tr><td>赤</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>オ</td></tr> <tr><td>赤</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>オ</td></tr> <tr><td>赤</td><td>—</td><td>青</td><td>—</td><td>オ</td><td>—</td><td>緑</td></tr> <tr><td>青</td><td>—</td><td>赤</td><td>—</td><td>オ</td><td>—</td><td>緑</td></tr> <tr><td>青</td><td>—</td><td>赤</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>オ</td></tr> <tr><td>青</td><td>—</td><td>緑</td><td>—</td><td>オ</td><td>—</td><td>赤</td></tr> </table>	オ	—	緑	—	青	—	赤	オ	—	赤	—	青	—	緑	オ	—	青	—	緑	—	赤	赤	—	緑	—	青	—	オ	赤	—	青	—	緑	—	オ	赤	—	青	—	オ	—	緑	青	—	赤	—	オ	—	緑	青	—	赤	—	緑	—	オ	青	—	緑	—	オ	—	赤	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた条件の中で、起こり得る場合の数を、図などを用いて、落ちや重なりがないように書き出す。</li> <li>図以外にも、言葉で順序よく起こり得る場合を書き出しても正答とする。</li> <li>書き出す際、「オレンジ」を記号化して「オ」と簡単にして表すことが、順序よく整理して調べる場合に有効であることを確認する。</li> </ul>
オ	—	緑	—	青	—	赤																																																											
オ	—	赤	—	青	—	緑																																																											
オ	—	青	—	緑	—	赤																																																											
赤	—	緑	—	青	—	オ																																																											
赤	—	青	—	緑	—	オ																																																											
赤	—	青	—	オ	—	緑																																																											
青	—	赤	—	オ	—	緑																																																											
青	—	赤	—	緑	—	オ																																																											
青	—	緑	—	オ	—	赤																																																											